

# 果実販売動向

販売課 田中 瑠偉



3月の果実動向は、引き続き二極化現象で推移しました。いちごについては、3番果の入荷が予想より少なかったことに加えて、売場の中心となつていことから順調な荷動きとなり、保合価格での販売となりました。中・晩柑類については、昨年の長梅雨などの影響で全体量が少なく、底堅い展開で推移していますが、売価高から売場は狭く、荷動きの鈍い状況となりました。

当JAでは、普通冷蔵りんごは3月いっぱいまで終了し、4月からはCA貯蔵品、スマートフレッシュ品に切り替わり、サンふじと有袋ふじの併売となります。王林については香港向け輸出を中心に国内向けも順調に出荷されています。サンジョナゴールドについては、大型JAの選果が後手に回り、一斉に出回ったことにより売り場もないことから暴落し、厳しい販売となりました。そのことから3月下旬まで出荷を抑制し、それ以降に販売することとなりました。よって精算が4月にずれ込みます。ご不便をおかけし、お詫び申し上げます。

今後も、いちごについては安定した入荷と売場が確保されていることから引き続き堅調な販売となります。

る見通しで、中・晩柑類については、堅調価格のなか、入荷量の減少から売場は縮小され、スイカ等は全国的に気温が高めで推移していることから前進傾向となる見込みです。また、輸入果実はN産キウイが徐々に始まる見込みです。

りんごについては、サンふじを中心にCA品の出回りにより、上位等級品については保合価格で推移することが予想されますが、下位等級品については潤沢な入荷に加え、消費地の気温も大幅に上昇していることから、品質面での懸念も加わり、引き合いは鈍化する見込みで、りんご総体としては下げ基調の展開が予想されます。後続する競合果実が全体に前進傾向であることから、りんごの売り場は冷蔵棚へ移行され、一斉に縮小されることが予想されることから、消費宣伝、企画販売への積極的な取り組みにより相場の安定を図ります。

J A全農あおもりデータ（3月31日現在）

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	ジョナ	その他	合 計
単 価 (円)	2,603	4,082	2,738	2,523	2,706	2,639
前 年 比 (%)	82	86	92	78	92	87
在庫数量 (ト)	67,963	27,664	10,882	15,646	7,694	129,849
前 年 比 (%)	173	104	119	139	142	142

# 直売所「林檎の森」

副リーダー 三上翔平



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただきありがとうございます。春になって気温も上がり、お客様も多くなってきました。

先月の19〜21日に開催した林檎の森リニューアルオープンの一周年記念イベントでは普段から買い物でご利用になられているお客様や会員の方、組合員の方々などではないに盛況ぶりでした。大人数の榎長谷川水産の切り鱈や、むしり鱈、そのほか干し餅やこめ油、五倍酢など普段より一周年記念のセールとして普段より安く買えることもあって、たくさんのお客様に足を運んでいただきました。改めて感謝申し上げます。

現在、売り場には徐々に山菜(ウド、タラの芽、コシアブラなど)や地場産の野菜(ホウレンソウ、小松菜、キャベツなど)の出荷も増えてきていて、値段もお安く大変お買い得です。

ササダケやモウソウダケなどは、これから徐々に出荷が増えてくると思われます。

4月29日〜5月9日の間、花と緑の市を開催いたします。

きゅうり、なす、トマト、ミニトマト、ねぎ、玉ねぎ、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ツルナ、メロン、スイカなど様々な野菜苗から鉢植えの花などもたくさん販売いたしますので、家庭菜園などにぜひいかがでしょうか? 詳しい内容はチラシも配布いたします。

4月1日よりスタッフの人事異動で入れ替わりがあり、サービス等が行き届かず不慣れな点もあるかとは思いますが、スタッフ一同頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いします。たくさんのご来店をお待ちしております。



天然の山菜が多く店頭に並ぶ



リニューアル記念では新作ソフトクリームが大好評

直売所「林檎の森」人気の恒例イベント!!

花と緑の市 開催!!

開催期間: 4月29日(木) ~ 5月9日(日)迄

営業時間: 9時~16時迄 雨天決行

屋外での開催となりますが、レジなどにて新型コロナ感染対策を行いますので是非足を運んで綺麗な花と、元気な野菜苗などをお買い求め下さい。



# 生産情報

農業振興課 米澤 松太



## ○りんごの生育状況

今年の積雪状況は昨年よりも多く推移したものの、3月以降の気温が高く経過し、降雨も多かった影響で昨年より4日遅い3月31日に管内全地点で消雪を迎えました。

また、ふじの発芽は早い地点で前年と同じ4月1日となっており、ます。

開花については、今後の気温が平年並みに推移した場合、黒石のりんご研究所で、ふじで5月3日頃と予想されます。今後の天候によつて生育が前後することも予想されますので、春の作業は計画的に準備を行いまししょう。

## ○春の低温に注意

開花期から幼果期における凍霜害の発生が懸念されることから、防霜ファンを設置している園地では機器の始動点検を行い、稼働状況を確認して下さい。防霜ファン

を設置していない園地では燃焼資材の準備を行い、被害の軽減に努めて下さい。燃焼資材を使用する場合は周辺環境にも十分に配慮しましょう。

## ○良品果実生産に向けて

高品質かつ大玉果実生産に向けて授粉を積極的に行いましょう。授粉作業を行うことで結実量を安定的に確保し、奇形果実となるのを防ぎます。

人工授粉を行う場合は、交雑和合性に注意し、中心花を主体に授粉し早く咲いた花から行いましょう。

## ○展葉一週間後頃の薬剤散布

黒星病は近年少発生で推移していますが、油断はできない状態です。そこで、薬剤による防除効果を最大限活かすための重要ポイントをお知らせします。

### ① 散布間隔10日以内を守る

昨年と同様に黒星病対策の薬剤

は予防効果主体となりますので、降雨前防除で散布間隔をしっかりと守りましょう。

### ② 散布量・散布速度に気をつける

内枝などには薬剤が行き届かず、また、散布量を多く出しているもスプレーヤの走行速度が速いと散布ムラの原因となりますので、適量散布かつ適正速度で丁寧な薬剤散布に努めましょう。

### ③ 風が強い日の薬剤散布

風が強い日に散布を行うと、樹全体にまんべんなく薬液が付着することが困難となり、散布ムラによつて黒星病の感染が広がってしまうので風の強い日の薬剤散布は控え、出来る限り無風に近い日に散布しましょう。

これらの事例を踏まえて黒星病の被害を最小限に抑制しましょう。

## ○農作業事故には十分注意を

農作業が本格化していますので、機械による作業は特に気をつけ、急がず焦らず、安全を心がけ事故の無いように注意して作業を行いまししょう。

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
1	300ℓ	展葉1週間後頃	ベフラン ダースバンDF マシン油	1,000倍 3,000倍 200倍	○混用順序 ①水→②マシン油→③ダースバン→④ベフラン
2	320ℓ	開花直前	カナメ(F) 又はパレード15(F) アタブロンSC	4,000倍 2,000倍 4,000倍	○黒星病の重要防除時期のため、散布量・散布間隔(10日)を厳守する。
3	350ℓ	落花直後	ミギワ20(F) チオノック(F) アタブロンSC カルシウム剤	4000倍 500倍 4000倍	○殺虫剤は、開花直前・落花直後とも同一薬剤を連続散布する。

りんご病害虫防除暦(1回目~3回目)